

## 三菱ふそうトラック・バス株式会社 中津工場

所在地 神奈川県愛川町

雇用障害者 内部障害者／知的障害者



## 中規模の工場で、長期に継続雇用

## 事業所の概要

トラック・バス、産業エンジン等の開発、設計、製造、売買、輸出入を行っている三菱ふそうトラック・バス株式会社。2003年1月に、三菱自動車工業株式会社から独立しました。その生産拠点のひとつである中津工場は、トラックやバスのトランスミッションに使用される歯車の一貫加工を行っています。中津工場には、総務部と、部品工作部歯車課が配置されており、社員数は約160名です。部品工作部は歯車課を含めて全部で4つの課があり、歯車課以外の3つの課は川崎工場にあります。

障害者雇用については、三菱自動車工業株式会社からの独立前から、継続的に取り組んでいます。採用経路は、ハローワーク。ここ数年は、販売会社等を中心とした新規学卒者以外の雇用が中心となっています。現在、工場には新規に雇用した障害者のほか、雇用後に障害者となった中途障害者がいますが、中津工場にも11年前に雇用した知的障害者と、雇用後に内部障害者となった人がいます。

## 障害者雇用の取り組み

## 社内への啓発

神奈川県川崎市にある本社では、月1回全国の人事担当者が集まって会議を行っています。この会議の場で、本社の人事担当者から各事業所の人事担当者に対し、全社的な障害者の雇用状況について説明したり、各部署での障害者の受け入れにかかる依頼等について話をしている時間を設けています。

実際に障害者を配属している職場においては、必要に応じて周囲の社員がその人に関わる情報を共有し、配慮を行っている場合もあれば、管理職以外にはあえて伝えていない場合等、状況によって様々です。

## 職務の開発や調整

現在は、社内にある職務の中で、障害者の個々の状況に合った業務に配置しており、障害者に合わせた開発や調整等は特には行っていません。但し、まだ実現にはいたっていませんが、現在社外にアウトソーシングしている軽作業を社内に戻すことができれば、職務が広がる可能性があります。

## 雇用管理上の配慮・工夫

一人ひとりの体力やできることを考慮して、心身ともに負荷がかからない業務に従事してもらうこと、残業や夜勤を避ける等の配慮を行っています。また、体調や都合に合わせて、フレックスタイム制を利用できるようにしています。フレックスタイム制のコアタイムは、10時～15時。製造部門に勤務する社員が利用することはなかなか難しい状況ですが、総務部に所属する1名の社員がこの制度を利用しています。

さらに、高齢化社会に併せて定年後65歳まで再雇用する制度を導入しており、高齢となった障害者も同様に継続して戦力として活躍してもらう体制を整備しています。現在、2名があと数年で定年を迎えるため、こ



沼山さんと同じ職場で働く係長の長坂敏彦さん



Aさんと同じ職場で働く係長の萩原直輝さん

の制度を利用してさらに活躍することが期待されます。

## 雇用事例

## Case1: 岡山伸明さん

50代後半、勤続38年の岡山さん。総務部に所属し、人事部の統括専門職として勤務しています。

岡山さんは内部障害（腎臓機能障害1級）。12年ほど前に病気により、障害者手帳を取得しました。現在は、週に3回夜間に人工透析を行っています。そのうち2回は平日に当たっていますが、フレックスタイム制を利用し、その日は早めに退社するようにしています。

## Case2: 沼山務さん

50代後半、勤続40年の沼山さん。部品工作部の試作特定班に所属しています。入社以来、一般職から上級職へとキャリアアップを果たし、現在は技能系列監督高度技能職という職務を担っています。現在は、部品生産の進捗管理や調整にかかる業務を行っています（パソコンを使用）。

沼山さんは内部障害（直腸機能障害4級）。6年ほど前に病気により、障害者手帳を取得しました。体力面を考慮し、夜勤やフォークリフト運転は避けるようにしています。

## Case3: Aさん

30代前半男性のAさんは、軽度の知的障害です。約11年前、ハローワークの紹介により入社しました。

入社してから3年間くらいは部品の熱処理業務を行っていましたが、その後は現在に至るまで、主としてトランスミッションの部品の一部であるハブとスリーブの組み合わせ、及び検査（＝キズが無いかどうか）を行っています。部品の種類は10数種あり、日によって変わりますが、指示書を見てその日の業務を把握します。さらに、時には簡単な

機械加工も行っています。

Aさんに対しては、安全面を重視し、判断ミスで怪我につながるような作業に従事することは避けています。また、繰り返し行う作業を行ってもらう等、同時にいろいろな判断が必要な作業はさせないように配慮しています。また、Aさんに対する特別の配慮ではありませんが、中津工場では、もともと誰に対しても個別の状況に合わせてわかりやすく仕事を教えることを実践しています。

以上のような配慮のもと、Aさんは1日平均200個の部品を処理する等、今では主力メンバーの一員となっています。今後どこまでできるか確認しながら、機械加工の仕事徐徐に増やしていくことを目標としています。



長期に勤務し、キャリアを積んでいる岡山さんと沼山さん

## i 職場インタビュー

部品工作部歯車課課長  
大島卓雄さん

一人ひとりの状況に応じて、負担のかけられない仕事を考えるようにしています。また、部品工作部は川崎工場にもありますが、川崎工場も含めて、意欲のある人には、可能な範囲で仕事のローテーションを行ってもらう等、いろいろなことにチャレンジする機会を設けるようにしています。



## 岡山伸明さん(内部障害)

入社以来、ずっと総務関係の仕事をしています。以前は川崎工場に勤務していましたが、14年ほど前に当工場に移りました。疲労しやすい傾向はありますが、現在は残業も殆ど無く体力的にきつい業務内容ではないため、順調に仕事を行っています。



## 沼山務さん(内部障害)

以前は品質管理を担当しており、2年前現職に異動しました。現在、2カ月に1回の通院以外は特段の配慮は必要なく、順調に仕事を行っています。但し、普段から無理をしないこと・汗をかかないことなどについて気をつけています。



## Aさん(知的障害)

仕事には慣れました。普段から心がけているのは、自分に与えられた仕事をこなすということです。今後、機械加工の仕事をもっとやってみたいです。